

ボールの特性レポート

BALL REPORT



ボール名 ナノデス アクユロードⅢ	投球者 徳江 和則	センター 平和島スターボウル
RG 2.574	△RG 0.028	●ピン ★PAP ✕CG ■バランスホール

テストボール：ナノデス アクユロードⅢ

フレアーの幅 インチ

表面加工
 箱出し状態
 加工
 ペーパー
 ポリッシュ
 研磨剤

PAPからピンとの距離 **4-1/2** インチ

番

比較対照ボール：ナノデス アクユロードⅡ

フレアーの幅 インチ

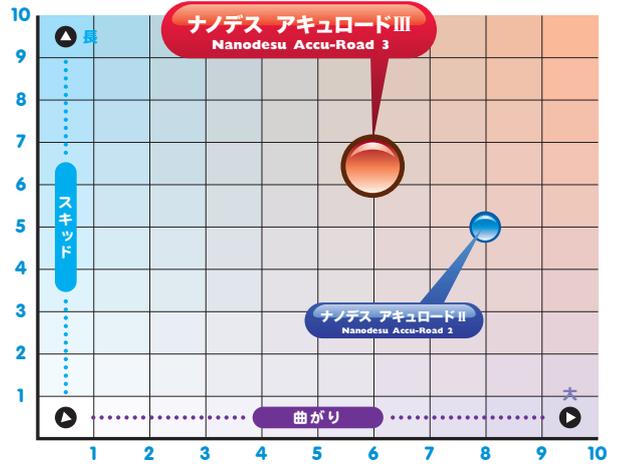
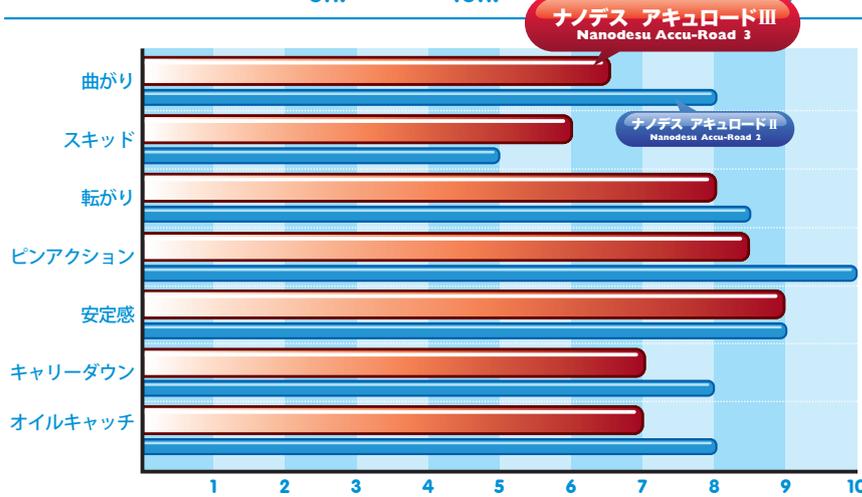
表面加工
 箱出し状態
 加工
 ペーパー
 ポリッシュ
 研磨剤

PAPからピンとの距離 **4-1/2** インチ

番



- ヘビー
- ミディアム
- ライト
- バフ



レーンコンディション: Light Oil, Light to Medium, Medium Oil, Medium to Heavy, Heavy Oil

バックエンドリアクション: Smooth, Smooth to Arc, Arc, Arc to Sharp, Sharp Angle

レングス: Early Roll, Early to Med, Med-Lane, Med to Late, Late Roll

ボールの評価

匠製法で知られる日本エポナイト社のACCUシリーズ。その中でAccu RiseとAccu Roadは同じNano-Thaneカバーを使いながらコアや添加物の配合比を変えてパフォーマンスを調整しています。今回のAccu Road 3は高RG・低△RGで直進性とスムーズな動きを特徴とするShallot Core (ABSOLUTION BEAM PULS 同コア)をエネルギーユニットに、プロ・アマに評価の高いNano-Thane 2.0 Pearlをベースにパールを増加(調整)した新配合カバーストックを採用しました。

様々な角度から検証すると、このAccu Road 3は本当にバランスのとれた出来だと実感できます。それはコアの数値が非常に重要で、高いRGを持つことで直進性が出ているので他のボールと比較すると明らかにボール2~3個先へいくのがわかります。そこにNano-Thane 2.0 Pearlのパール調整が加わっているため、同じNano-Thane 2.0の領域より直進性の軽さを感じることが、Accu Riseシリーズの次に使用することを可能にしています。コアの数値はややシェイプダウンしていますが、カバーとコアのマッチングが非常に優れているので、実にコントロールしやすさと実用性のあるパフォーマンスを感じて頂けるでしょう。

このような性能だとAccu Riseでやや手前が枯れてきたと感じるコンディションや薄めのコンディション、先がやや動き過ぎると感じるラインでしっかりコントロールできるラインに落ち着くことができるでしょう。

最近の主流のスペックのボールは反応を強めて入射角が深くなったり、起き上がりの強さを前面にだしたボールが多く発売されています。それと並行して向きが変わりすぎたり、噛みすぎて早めにポケットのラインから外れるゲーム数も早くなりました。そのような時大幅なライン変更をせずに対峙できるボールも必要な方も多いでしょう。そういう方も含め、またコントロール重視でミディアムから以下で実用性の高いボールを求めている方は必見です。

特記事項

Nano-Thane 2.0 Pearl の配合調整が行われていて、高RG・低△RGコア×Nano-Thaneカバーの新たなAccu Roadの発売です。コントロール性に優れバックエンドでの動きが読みやすく、スコアメイクに欠かせないボールに仕上がりました。